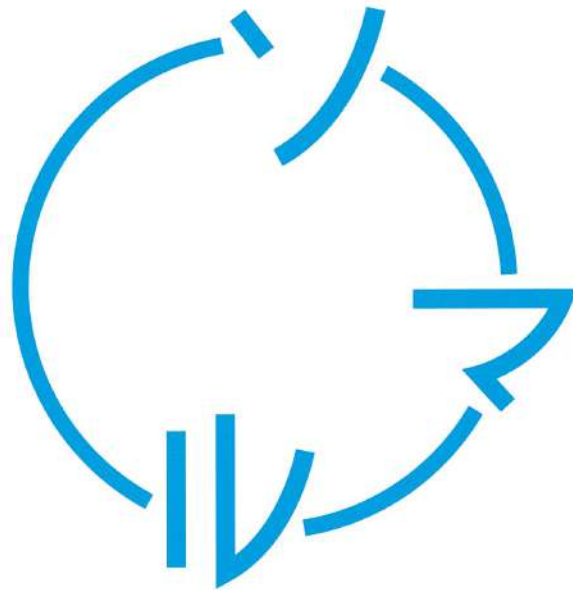


川島弘子

小松葉月

高嶋英男

PAPER BRUT



msb
gallery

旅する展覧会
Travel Exhibitions #2

2022年7月25日(月)ー8月2日(火)
asto 10:00ー19:00(最終日14:00迄)

asto Shared Office & Artist in Residence

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来場の際はマスクの着用や
手指の消毒等にご協力をお願いいたします。



〒948-0066 新潟県十日町市袋町西 91 有限会社 瀧長商店第一倉庫2階
シェアオフィス & アーティストインレジデンス アスト

電車でお越しの場合「十日町駅」より徒歩9分(700m)
東京方面>>JR 上越新幹線「越後湯沢駅」より、ほくほく線「十日町駅」下車
大阪方面>>JR 北陸本線「金沢駅」より、ほくほく線「十日町駅」下車

お車でお越しの場合
東京方面>>関越自動車道「六日町IC」より、R253「十日町市」
新潟方面>>関越自動車道越後「川口IC」より、R117「十日町市」
※お車の場合は、駐車場がありませんので近隣駐車場をご利用ください。

火焰土器や染色織物、ちんころ文化など、
様々な伝統を継承してきた新潟県十日町市で、
それぞれの「作品」が出会い、共鳴し、浸透します。

樹々の木目を起点に、抽象的で物語性に富んだカタチを生み出す川島弘子。やきものや古布を素材に、内的風景を形象化する小松葉月。陶土を使い、器と生物が融合したユニークな造形を作る高嶋英男。原料となる植物を育て、漉いて染めるペーパーワークを制作する PAPER BRUT。

木、布、土、紙など自然由来のマテリアルが、個々のルーツや視点をもとに、それぞれ異なる表現で用いられ、彼ら独自の活動として展開されていきます。

そこから作り手たちの柔軟な発想と共通項を見い出すことが出来るでしょう。

夕映えの空が赤く輝き染まるよう、四つの景色が交じりあい、しだいに鑑賞者の心の中に染みこんでいく。

そんな体験を本展は目指します。

msb gallery

@msb_gallery 🐦msb_gallery
<https://www.msb-gallery.com>



高嶋英男

1981年 東京都府中市生まれ
2010年 多摩美術大学 美術学部工芸学科卒業
2012年 多摩美術大学 大学院美術研究科工芸専攻修了
2014年 東京芸術大学大学院彫刻専攻修了

高嶋英男は人の身体を型どりした人型を用い人物の特徴を現実、虚構、織り混ぜてインスタレーション化する作品や本来注目しない花瓶の口の空洞部分を顔に置き換えた「顔が穴」になった人型の陶器、食材としての饅節を使った彫刻作品など日常の周辺にあるイメージを拡大、反転させながら作品化してきました。ときに不可解さをかもしだすユーモアを含んだそれらの作品は見るものに強い印象を与えます。

2012年「Hideo Takashima Exhibition」KOKIARTS(東京)にて個展開催。2011年「第14回岡本太郎現代芸術大賞展」川崎市岡本太郎美術館、2021年「メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年」府中市美術館(東京)、2022年「地つづきの輪郭」セゾン現代美術館(軽井沢、現在開催中)などグループ展に多数参加。



「空の鳥」2019 陶・釉薬・箔 H11×13×5cm
※画像はイメージであり、今回出品していない作品も含まれます。



「虚空」2019 陶・釉薬・箔 H14×14×11cm

現代の紙ってなんだろう

今を生きる私たちと

紙との関わり方について模索します

I wonder

what the current handmade paper is.

I want to know

what the relationship is between the paper and us who live in the present.



「冬産種 BORO of winter」2021 楕・黒土 42×57cm

新潟を拠点に活動する PAPER BRUT は自然に対する思いを表現しています。豪雪地で育った植物から生み出される作品の数々はまさにこの土地そのもの。植物の繊維が幾重にも重なりあい生まれ変わる。それは自然の再構築とも言えます。

植物から生み出されたさまざまな表情の作品は見るものを自然へと回帰させます。

PAPER BRUT

2015年より活動を始め、身近な植物や樹皮を用いた造形作品を制作し、国内外で展示しています。

PAPERは紙、BRUTはフランス語で生のままという意味であることから、自然そのものをあらわす紙という思いと、和紙はかつて生紙(きがみ)と呼ばれていたことから PAPER BRUT と名付けました。

「自然を写す」をコンセプトとして、原料である楮や植物を栽培、採取し作品制作を行っています。

msb gallery

旅する展覧会 Travel Exhibitions #2

2022年7月25日(月)ー8月2日(火)
asto 10:00ー19:00(最終日14:00迄)

msb galleryは、「緑」「都市部と地方」「世界」「過去、現在、未来」をむすぶ移動式展覧会プロジェクトです。

コロナ禍で直接的交流を避ける風潮が定着するなか、人と人とのふれあいや結びつきを大切にしたいと思い、東京を拠点にさまざまな都市へ出かけ開催地ごとに異なるテーマで展示をする『旅する展覧会〜 Travel Exhibitions 〜』を立ち上げました。

川島弘子

1975年 福島県会津若松市生まれ
1996年 國學院大学文学部文学科卒業

川島弘子は、日本のIT業界の黎明期にそのキャリアをスタート、コンテンツ運営やデジタルによるキャラクターやデザインなどの制作に携わりつつ、点をつないで絵を浮かび上がらせる点つなぎパズルを中心にイラストパズル誌に多数連載を持つ人気パズル作家です。

その多様な営みの中で、手で直接木を彫り形を生み出す、紙に絵を描くなど、原初的な衝動に突き動かされた作品の制作に近年取り組むようになります。それらはエモーショナルな力を感じると同時にパズルのような幾何学的視点も併せ持つ独自の世界といえます。

2018年二人展「点と穴」GALERIE PARIS(横浜)、2019年より「新春21世紀展」GALERIE PARIS(横浜)、2020年より「KIZUNA展」GALLERY ART POINT(東京)、2022年より「POINT-視点-AND LINKS81 Produce」GALLERY AND LINKS81(東京)、「神戸アートマルシェ」msb gallery(東京)など多数グループ展に参加。2018年月刊ギャラリー9月号「日本で発表されているアート400選 part2」掲載

「点」2018 楕 H11.5×10×10cm



2014年「第17回 岡本太郎現代芸術賞」特別賞受賞(川崎市岡本太郎美術館)、2015年「Haishakkel Art Award 2015」

2015年『大逆転戦車』DESK/okumura(東京)、『おぼあちゃんと深夜2時シャッターあける』JINEN GALLERY(東京)、『小松葉月 個展』ギャラリーなつか(東京)、2017年『小松家大移動展』金子家(神奈川)、2019年『細胞行列』栗田悦子画廊(東京)



「ランドセル」2014 ランドセル 29.7×42cm

小松葉月

1991年 神奈川県生まれ
2017年 多摩美術大学大学院工芸学科陶専攻修了

自身のマイナスな感情の中で起きた出来事を、作ることの喜びによって、プラスな出来事へ変化させるために作品づくりを行う。制作において扱う素材は陶、古布。

小松葉月は、大量の「ニコチャンマーク」の集積によるオブジェや絵画、空間全体をそれらで埋め尽くすインスタレーション作品など、日々多様な作品を制作してきました。生み出されたものは、どれも作者の私的な経験を通して形作られた切実な個人史でもあり、同時に他者へと開かれた大きな「扉」でもあります。

力強く暖かさもあるその作品は、見る者の心に優しく時に、鮮烈に残り続けます。